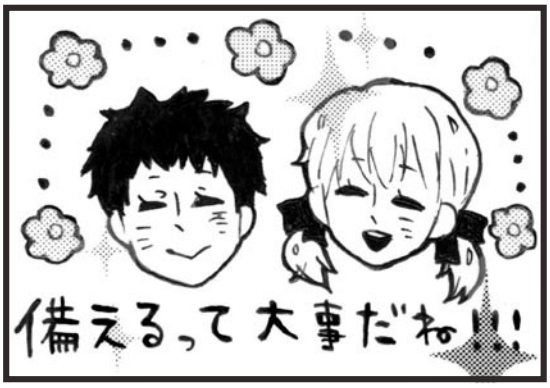
蒲郡マンガ歳時記

備えあれば憂いなし



企画広報課 ☎66◆1145

読む、水族館

学芸員　小林龍二

竹島水族館
☎68◆2059

「少年自転車部隊」

仕事が休みの日はよく市内の観賞魚店に行きます。仕事でもプライベートでもお世話になっている店で、私はなんと小学校3年生の時から通っています。

当時は豊岡町にあり、私は友人たちと自転車で通っていました。小学校5・6年生の頃になると日本中で熱帯魚ブームが起こり、飼育を開始する友達も増えて、多いときは7～8人で自転車を走らせて店に行ったこともありました。その中の一人が三谷水産高校を出て名古屋港水族館に就職、私は竹島水族館、もう一人は漁師になって竹島水族館に展示用の魚を採って来てくれたりと、いまだに魚を扱っているのは笑えます。

店に行くと、駐車場に竹島水族館の車があって、水族館の飼育員さんが店にいる！と、ワクワクした覚えがあります。小学生だった我々は、買った魚を自転車で家まで運ばなければならず大変でした。自転車のカゴに入れると、荒い運転で袋が破れたり、何よりも小遣いをはたいて買った大事な魚を、かなり揺れるカゴなんかに入れて運べない。そのため、我々は右手に魚の入った袋、左手はハンドルという片手運転で故郷の大塚まで帰りました。7～8人も袋を提げて真剣な顔で自転車を片手運転しているのは結構おかしな光景ですね。また、6年生の時は豊橋まで自転車で遠征したこともありました。電車を使うお金があるならそのお金は魚へ、という考えでした。あるいは電車代を体力でカバーして浮いたお金を魚へという考え。蒲郡から自転車で来た、という少年たちに豊橋の店の店員はびっくりしていました。おかげで今でも自転車は好きで、運転もうまいほうだと自負しています。